

鳴海の全日本ぶらり旅

浅草編

江戸時代、もつとも栄えた繁華街として名を馳せた浅草。高層ビルがあちらこちらに建ち並ぶ東京において、昔ながらの情緒と人の温かさを感じさせてくれる下町の風景は、今なおたくさんの人たちの心を惹きつけています。春を間近に控えた浅草を訪ねました。



地下鉄の浅草線、銀座線で浅草駅を降りて徒歩1分ほど。浅草寺まで続く仲見世通りは、たくさんのお店と、観光客や参拝客でにぎわっていました。浅草のシンボルともいえる雷門の大き



▲仲見世通りからみえる五重の塔

な提灯の下を通り、いざ浅草寺へ。と、思ったら入り口で、「ちょっとお兄さん見ていかない？これは面白いよ！」

に敏感な私はついつい足を止めてしまったのでした。「面白いって何？」

「これはもう大発明！お年よりは目が悪くなつてくると針に糸を通せなくなるでしょう。そんな時にはこれが大活躍。名づ



▲自動糸通し機を売っている面白いお兄さん



▲雷門の前で。大きな提灯は浅草のシンボルです

けて自動糸通し機！（そのままじゃないですか。）1回だけやるからね。仕組みがわかったら1個プレゼントしちゃうよ。」

小さな機械の穴の部分に針を入れて、糸を引つ掛けてボタンを押すだけであら不思議。糸が針に通ってしまいました。

「はい、わかった？」
「うーん、わかんない。もう1回！」
「1回って言ったじゃない、じゃあおまけね。…はい、わかった？」
「やっぱりわかんないや。浅草寺お参りしながら考えてくるね。」



▲たくさんの人でにぎわう仲見世通り

「おう、待ってるよ！」
 ということで仕組みを考えながら浅草寺までの仲見世通りをぶらりとすることにしました。

628年に推

古天皇が隅田川で漁師の網にかかった聖観音

像を祭ったことに始

まるというとても歴

史のある浅草寺。(現

在の本堂などは戦後、

再建したもの)

ご本尊の観音様は絶

対秘仏で、誰も拝見

したことがないとのこと。(神秘的ですね)

入り口の雷門は、正式には風雷門といい、提灯

を挟んで左右に立つ風神と雷神の像からこの名

前がついたそうです。ち

なみにこの大きな提灯の

重さは100kgもある

そうです。

この雷門から浅草寺までの約300メートルの



▲浅草寺の大提灯



▲せんべいを焼く見事な手さばき



▲浅草名物「駒形どぜう」の前で

道は仲見世通りという門前町で、昔ながらのお店が80件あまり並んでいます。できたてのせんべいやきびだんご、人形焼や雷おこしなどの美味しそうなお菓子屋

さんや、昔ながらの民芸品を扱うお店などいつまで見ても飽きないぐらゐの品揃えです。

宝蔵門という浅草寺にもっとも近い門のすぐ横で、たくさんの方と戯れている鳩使いのよう

な方を発見しました。

「すごいですねー。鳩使いみたいです。」

「私鳩が大好きなんですよ。あなたもどうぞ、これ餌です。」

ついつい手を出してしまった私にもたくさんの方

鳩が…。

「ね、これであなたも鳩使い。ホッホッホ…」

「ホッホッホって…でも何だか楽しいですね

仲間を増やしましょうか。」

と近くの観光客の皆さんにも少しづつ餌

をおすそ分け。一帯が



▲鳩使いになってみました

鳩だらけになってしまいました。

「また来てね、ホッホッホ…」

そして、ようやく浅草寺にたどり着きました。

本堂でお客様の健康を祈願。

お参りを済ませ、また来た道に戻りました。

「お兄さん、わかった？この仕掛け。」

「あ、そうだ考えるの忘れてたよ、鳩がたくさんいてさー。」

「…？何だかよくわかんないけどお母さんに買ってかない？喜ぶよー。」

結局、自動系通し機を2個、2千円で買ってしまいました。

仕掛けはいまだにわかりませんが、うちの母は大喜びでした。おばあちゃんも「最近系が見づ

らくてね、ちょうど良かった。これも浅草寺の観

音様のご利

益かね。」

そうか、そ

ういう考え

方もありま

すね。

今回もたく

さんの人た

ちと楽しい

出会いがあ

ったぶらり

旅でした。



▲お客様の健康を祈願してきました